

低投票率に危機感

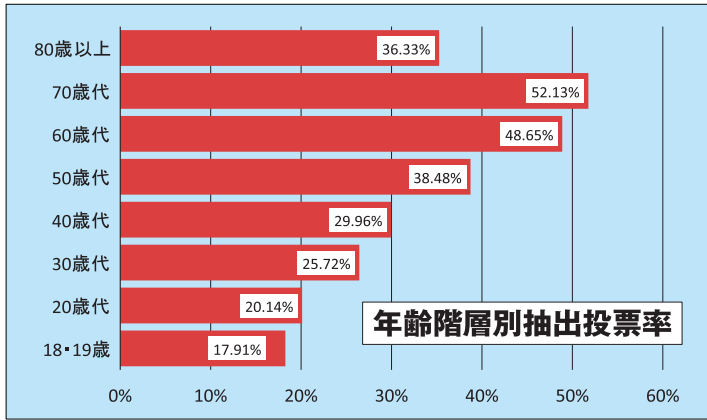
本年4月に行われた市議会議員選挙投票率は、前回を1.5ポイント下回る36.55%となり、1971年の74.61%から12回連続で最低記録を更新しました。

年代別投票率では、大学入学などの移動時期と重なったことで10歳代で16.3%、また、20歳代でも20.14%と極端に低く、さらに、今回の選挙では50歳代および60歳代の投票率が低下しています。

投票率の低下が続くと、多様な市民の考えが反映されにくく、民主主義の根幹に関わるとの意識から、先の定例会では多くの議員が質問しました。

問 投票率向上に向けた取り組みと、その課題について聞く。

答 期日前投票について、投票所の空白地域であった下知・潮江地区へ新設し、商業施設への開設を1カ所から4カ所に増やしたほか、開設日数を3日間から5日間へ拡大するなど抜本的に見直した。また、投票所入場券の裏面に宣誓書を印刷して期日前投票所の混雑を解消するなど選挙人の利便性の向上に努めた結果、期日前投票者数は2万8766人となり、前回を約1万人上回る好結果となった。特に商業施設4カ所の合計は1万5906人と全体の半数以上を占め、大きな成果を上げた。しかし、商業施設への期日前投票所の開設には、選挙の執行経費や人員確保の観点から課題がある。ただ、今回開設に至らな



人事議案

6月定例会最終日の28日に、市長から固定資産評価審査委員会委員の選任議案、人権擁護委員推薦についての諮問議案が提出され、それぞれ同意または異議なき旨答申しました。

- 固定資産評価審査委員会委員**
- 中村 健
- 人権擁護委員**
- 井上 博子
 - 野村ひとみ
 - 森澤 由喜
- 近藤 啓明**
- 藤本 智子**

つた高須以東の地域については、開設に向け検討していく。

今後投票所のバリアフリー化など投票環境のさらなる改善を進めるとともに、積極的な啓発活動と主権者教育の充実を図りながら、投票率の底上げにつなげたい。

問 若者の政治参画に向けた主権者教育の取り組みについて聞く。

答 常時啓発事業として小学校や高校で選挙に関する出前授業を行うほか、毎年8月に開催している、子どもたちだけで運営する仮想のまち「とさつ子タウン」における市長選挙や市議会議員選挙を通じて、選挙とは自分たちのまちづくりのための代表を選ぶことという本質的なことを理解してもらうよう努めている。

また、中学生と高知商業高校

生を対象に実施している「こうち志議会」では、開催に向けた準備として、各学校の生徒会を中心に、学校給食、教室環境、通学路など生徒の身近な分野や、環境保全から中心市街地の活性化まで幅広いテーマについて学習するほか、教育委員会でも事前学習会を実施し、本市の総合計画や、大規模災害への備え、産業振興、知

6月定例会で 結果の出た 請願・陳情

- 【採 択】**
- 女性差別撤廃条約選択議定書の批准を求める意見書提出の件
- 【不採 択】**
- 教職員の長時間過密労働解消のため、1年単位の変形労働時間制の導入ではなく、定数の抜本的改善を求める意見書提出の件
 - 日米地位協定の抜本改定を求める意見書提出の件
 - 若者も高齢者も安心できる年金制度への改革を求める意見書提出の件
 - 最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書提出の件
 - 10月の消費税率10%への引き上げを中止することを求める意見書提出の件

・徳・体の調和のとれた人材育成などの取り組みについて教えることで、生徒が市政を考える機会をつくっている。

こうした取り組みにより、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度の育成につなげたい。

休憩室



平成最後の統一自治体選挙を終え、新しい議員たちによる令和最初の高知市議会も終えました。平成から令和へと新しい時代への期待が高まった中、それに冷水を浴びせる

援に行った際、少年野球大会も同時にあったことから、たくさんの子どもたちが会場周辺には溢れていました。その元氣な歓声を聞いてみると、一瞬、少子化問題が現実なのだろうかと思ってしまうほどでした。

かのように、6月1日に県人口が70万人割れしたというショッキングな報道があったことは記憶に新しいところです。先日、孫娘の陸上競技大会

さて、5年後、10年後に、この子どもたちが高知県に残りたいと思える故郷にしているのかどうか。近い将来、孫娘に教えられそうな気がします。(議会広報委員 神岡俊輔)